キャラクター名
藤林　愛花　（ふじばやし　あいか）

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン バロール	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	16	性別	女
覚醒	死	衝動	憎悪	初期侵食率	36 %
出自	複数の兄弟姉妹がいる	経験	裏切られた	邂逅	保護者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	1			1
感覚	1	0	0			1
精神	5	1	0			6
社会	2	0	0			2

HP	28
行動値	5
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	6	3	交渉		
回避			知覚			意志	1	1	調達	1	
運転：			芸術：			知識：レネゲイド	2		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
サードアイ	ＲＣ	6r+9				コンセントレイト：バロール×死神の目。相手に与えるダメージが上がる

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
アルティメイド服		10		-3	ＲＣを＋３

合計装甲：	10	合計回避：	0

所持品	
思い出の一品	
携帯電話	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス：無形の怪物（アバター）	P	N		
Dロイス：奇妙な隣人	P	N		
おねーちゃん！：藤林優香	P 幸福感	N 偏愛		
シナリオロイス；謎の少年	P 好奇心	N 不安		
PC間ロイス：朝霧英介	P 信頼	N 無関心		
フリーロイス：響鈴華	P 連帯感	N 悔悟		
黒衣の怪物	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P： 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト・バロール	2	2	メジャー					
効果：クリ値をLevel－する								
死神の瞳	3	3	メジャー		単体			
効果：次に与えるダメージを『levelD＋１D』する。ただしこのエフェクトではダメージを与えられない								
冥界の檻	1	5	オート		単体			
効果：相手の移動時に宣言可能。その時ダイスをLevel分足し、回避と対決をして勝つとそのターン移動することができない。1シーン1回								
時間凍結	1	5	イニチアティブ		自身		80	
効果：イニチアティブで宣言可能。イニチアティブで行動できる。ただしHP20消費								
勝利の女神	3	4	オート		単体		100	
効果：達成値をLevel×3する。1ラウンド1回								
時の棺	1	10	オート		単体		100	
効果：判定を強制失敗させる。1シナリオ1回								
オリジン：レジェンド	4	2	マイナー		自身			
効果：精神判定時にlevel×2の達成値を増やす								
写真記憶	1							
効果：見たものを写真のようにすべて覚える								
ディメンションゲート	1	2						
効果：非戦闘時自由に移動できる								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

私は5歳の時、目がおかしいことに気が付いたの。
見たものをすべて記憶してしまう目。…私は特に気にしなかったけど他の人からさんざん言われてきた。
皆から言われた。目が不気味に赤く光ってるんだって。そしてテストではオール満点故に皆からひどく言われてきた。
辛かった、こんな目なんていらないって自分を責めてた。けど一人だけ私を信じてくれた人がいた。
私のお姉ちゃん。藤林悠香。
こんな目でなんでも覚えてしまう目を個性だって言ってくれた。
私はこの上なくうれしかった。それはもう涙が出るくらいに。
私はそれからこの目が好きになったんだ。いままでの悩みはなんだったんだろうってね。
それを境になのかはわからないけど、目が赤くなるって言われなくなったかな。
そして私が変わるきっかけが…中学3年生の時にあったの。私が裏の世界に行った日。
中学3年生のころ、最近お姉ちゃんが態度とか何かが変わってたんだ。当然妹である私が見逃すはずもなく

夜中こっそり出かけて行ったのをついていったんだ。見つからないように、そして見てきた記憶から見つからないところでこっそりついていったんだから。
そして隠れて見ていたら、お姉ちゃんが何かわからない化け物と戦ってたの…
私は怖くて近くに行けなかった、なんであんな化け物と戦って、そしてお姉ちゃんは銃を使って戦ってるのか、首席を取ってる私でも何が何だかわからなかったんだ。
そして恐怖のまま見ていたら、お姉ちゃんがピンチだったんだ…それを見て私は勝手に身体が動いてた。
怪物がとどめをお姉ちゃんにしようとしてた時、私はお姉ちゃんをかばってた。
そして…私は笑みをお姉ちゃんに向けて私は…一度死んじゃった。
最後に認めてくれたお姉ちゃんの力になれてよかったって思って…こと切れたみたい。
___次に目覚めたのはどこか真っ白な空間だった。天国なのかなー？って思っていると突如誰かが現れたの！
零二さんって言った人は急に話を進めるんだもん。オーヴァードとかいろいろと話をするんだもん！